

73. タイ・ソングラ湖における水辺集落の観光地化による変容の調査

0910920035 佐藤弘政
指導教員 市川尚紀 准教授

タイ ソングラ湖 観光地化 水辺集落 ホームステイ

1.背景

本研究の調査対象地である、タイ王国・ソングラ湖ヨ一島の集落は、ソングラ湖の自然環境にうまく対応し、空調設備などに頼らずに快適な生活をしている。彼らはその自然環境を利用したホームステイ事業^{註1}を展開しており、観光客の注目を集めている。この集落の水上住居を利用した観光事業は、ここの住人が始めたもので、現在も住人の生活行為がみられる水辺集落であり、世界に存在する「観光地化された滞在型の水辺集落」としては珍しい事例である。このように自然とうまく共生し、それを観光に利用している集落の構成やビジネスモデル、観光地化による影響を把握することは、自然を取り入れた空間計画や、現存する水辺集落の今後の在り方を考える上で、重要なヒントを得ることができると考えた。



図1 ソングラ湖・ヨ一島

2. 目的

ソングラ湖ヨ一島の集落において、水際での生活行為についての魅力と問題点を捉える事によって、現存する水辺集落の現状を見直すきっかけになると考え、以下を本研究の目的とした。

- 1) ホームステイ事業が自然環境や集落の文化に与える影響を、実測・ヒヤリングによって把握する。
- 2) 観光地化による集落の変容について「空間構成」「住民意識」「環境」の3視点から今後の集落のあり方を考察する。



写真1 ホームステイ住居

3. 調査対象地

ソングラ湖内に位置するヨ一島のアオサイ集落を調査対象地とした。

アオサイ集落は、近代化に侵されておらず、豊かな自然環境の残る田舎集落である。集落の雰囲気は至って穏やかで、集落のいたるところに椅子やベンチが置かれており、住人同士のコミュニケーションの場がつけられている。また動物が放し飼いのような状態で飼われており、

緩やかな時間と風景を感じることができる集落である。

このような田舎風景の中に、新しいホームステイ住居が次々と建築されている。

4. 調査概要

調査概要を表1に記す。

表1 調査概要

予備調査	2012年8月21日～8月23日の期間にヨ一島・タイゾを予備調査対象地とし、ホームステイ住居の実測、環境の実測を行った
本調査期間	2012年8月22日～8月25日
調査対象地	タイ王国・ソングラ湖・ヨ一島・アオサイ集落
方法	
1 集落の配置	建物の位置、建物間の距離を測り、集落の湖上・水際の建築物数は目視によって行った
2 ホームステイ住居の空間構成	目視によるホームステイ住居の空間構成を把握したメジャーを用いて平面図・断面図に必要な寸法を実測した
3 ホームステイ住居室内温度・湿度	おんどりを用いて8月24～26日の温度・湿度を観測した
4 ソングラ湖の水質	簡易水質検査キットを用いてCOD・B5を観測した
5 水位変化	メジャーを用いて水位変化を観測した
6 地元住人の意識調査	通訳の方を介し、3人の地元住人にホームステイ住居に対する考え・意識についてヒヤリングした

5. 結果・考察

5.1 アオサイ・湖上の推移

写真2,3は、2012年の1月と8月のほぼ同じ位置から撮影したものである。半年間で水上住居が急増していることがわかる。水上で生活するという特別な体験が人気になっていること、また、それを経営する住人の財政面で漁よりも有益であることなどから、水上のホームステイ住居が急増したのである。



写真2 1月



写真3 8月

5.2 住居タイプ・配置構成

フィールド調査の結果、水際・湖上には71戸の建築を確認でき、その内の38戸がホームステイ住居であることが、ヒヤリングで分かった

この内漁師小屋をホームステイ住居に改築したのが10戸、ホームステイ住居を新築したのが28戸、一般住居が19戸、レストランや小売店などのその他の建築が14戸であった。

5.3 ホームステイ住居のつくりと設備

ホームステイ住居は水上に建築されており、アクセス

は、直接ホームステイ住居に入れるタイプやデッキを渡るタイプ、船によって移動するタイプなどがあった。陸から離れるほどホームステイ住居の数が多い。これは元々あった漁師小屋を、ホームステイ住居に改築したものが多いためである。ホームステイ住居は柱間の距離や部材の寸法が統一されておらず、簡素なつくりであった。壁や窓がない空間（腰窓や手すりで囲っている）が多く、湖上の風が住居の中を通るつくりになっていた。そのため、室内には常に風が通り、空調を利用せずに快適に過ごすことができる。

水道は陸から引いていた。電気も、水上に杭を立て電柱のような形で陸から送電していた。下水設備はなく生活排水はソクラ湖に垂れ流しの状態であるため、ホーム

ステイ事業を迷惑だと感じている住人もいる。

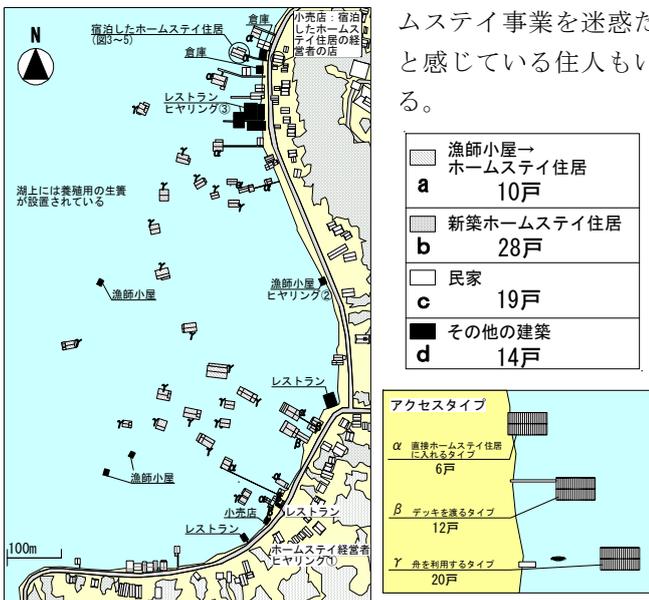


図 2 住居タイプ別民家配置構成

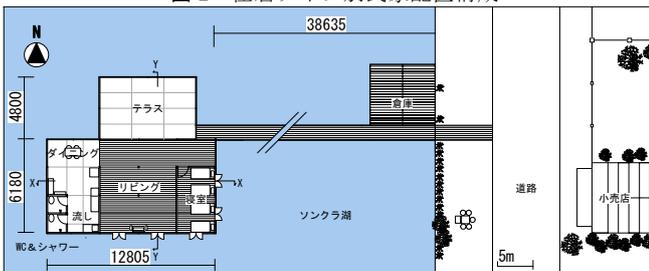


図 3 ホームステイ住居の配置兼平面図

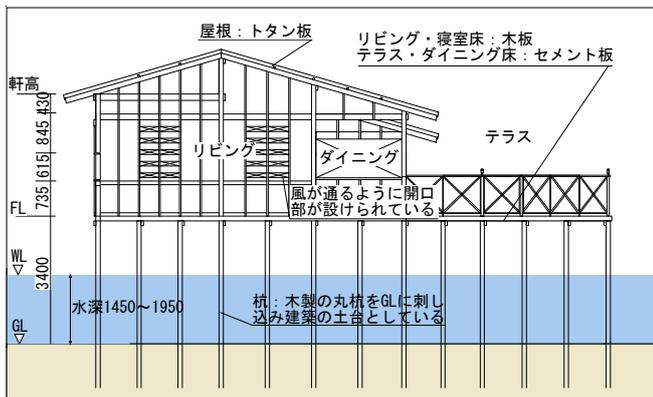


図 4 Y 断面図

5.4 環境実測結果

温度・湿度、水質、水位変化について実測を行った。

(1) 日中は気温が高く、夜間との気温差は激しい。室内は壁のない空間が大半を占めており、外部の影響を直接受ける。真夏でも 20℃～35℃と同日・同天候の広島と同じような数値が観測できた。ただし、水上は常に風が吹き、体感温度は実測値よりも低めであると感じた。



図 5 リビングの温度・湿度 (2012 年 8 月 24 日～8 月 26 日)

(2) ソクラ湖の水位は差が小さく、FL から 1450 mm～1950 mm ほどである。これはソクラ湖が内湾的で汽水の逃げ場が北東部の一部分しかないためだと推測できた。このように、水位変化が小さく、床上浸水が起こる可能性が低いため、杭式の水上市場建築が可能である。

(3) 生活排水が湖に垂れ流しにされているが、現在も良好な水質を保っている事実から、自然の浄化作用が働いていることが推測できた。ただし、今後下水処理が為されないまま、現在のビジネスモデルが継続されると、自然の浄化できる容量を超え、ソクラ湖の水質汚染が一気に拡大することが推測される。

6. まとめ

この地域では 2 年前にホームステイ事業が始められ、漁師小屋からホームステイ住居に改築したものが 10 戸、新築のものが 28 戸の計 38 戸まで急増した。そのアクセスは「デッキを渡っていくタイプ」や「直接ホームステイ住居に入れるタイプ」、「船で行くタイプ」がある。ホームステイ住居は主に杭式で、開放的なリビングを中心に、寝室やテラス、キッチンなどがある。

現在これらのホームステイ住居から出る生活排水は、湖に垂れ流されている状態であり、この事業を快く思わない住人もいる。現在はホームステイ事業による悪影響は深刻ではないが、確実に汚染は進行しており、早急に対策を講じる必要がある。

補注：注1) この地域での「ホームステイ」とは、水上コテージのような住居を貸し切る状態のことを指す。

参考文献：1) 中村茂樹・畔柳昭雄・石田卓也著：アジアの水辺空間～暮らし・集落・住居・文化～、鹿島出版、1999.11 2) 田中麻里著：タイの暮らし、圓津喜屋、2006.2 3) 平井幸弘：タイ国南部ソクラ湖における海面上昇の影響予測評価、Laguna. 汽水域研究、NO. 7, pp. 1-14, 2000.3 4) 佐野こずえ：水上住宅と居住者の生活スタイルに関する研究、日本建築学会近畿支部研究報告集計画系、NO. 39, pp. 77-80, 1999.5 5) 松田博幸：タイ国の水上集落・住居近代化と伝統継承に関する調査研究、日産科学振興財団研究報告書、NO. 20, pp. 96-99, 1997